

## 手書きの学級通信

私が高校2年生となったある日、一通の手紙が届きました。それは、小学校6年の担任の先生から送られてきたもので、私は丁寧にびっしり書かれた手紙の中の「文字」を見た時、忘れかけていたたくさんのことを思い出しました。

私がその先生と出会ったのは、小学校6年の4月でした。「優しそうな先生だ。」というのが第一印象であり、先生と出会った時、楽しい一年になると、私は確信しました。その予想は的中し、先生と過ごした一年はとても楽しいものでした。種から苺を育てて収穫したり、駅伝大会で優勝したり、思い出すとワクワクするような思い出ばかりです。

そんなたくさんの思い出を作ってくださった先生の特徴は、『手書きの学級通信』です。ワクワクの詰まった私たちの思い出を、先生は毎日手書きで学級通信にして綴ってくださいました。先生のたくさんの愛と私たちの思い出が詰まった分厚い学級通信ファイルは今でも私の宝物です。その手書きの学級通信の「文字」が、高校2年生の時に送られてきた手紙に書かれていました。その温かく優しい先生の文章と文字は、部活と受験勉強に悩んでいた高校2年生の私に不思議な力を与えてくれました。今の私があるのは、その時の先生の手紙のお陰です。

私の夢は小学校の先生になることです。先生のように上手な文字を書けるわけでも文章を書くのが得意なわけでもありませんが、先生のように子どもの未来に「なぜだか頑張れる。前を向ける。」そんな不思議な力を与えられるような先生になりたいです。

池田 祐介  
(大学生)

## 成長

私は中学生時代、学校に行くことを拒み、課題をまともにせず、行事などにも熱意をもてず、楽しんで活動することができませんでした。しかし、高校で私を変えた先生との出会いがありました。その先生はN先生です。

私は今、N先生が監督をしてくださっている新体操部に所属しています。中学生からやっていて、練習は厳しいですが、とても楽しくやっています。N先生は、「あいさつ」「礼儀」「積極的な行動」など、高校生に必要な当たり前な事を、厳しく熱意をもって指導してくださっています。今、私たちが学校に行けること、部活動で良い成績を残して、毎日の練習に取り組めることは、保護者や地域の方々、先生方の指導のお陰だと思っています。

私の中学時代は、暗く、ずっと独りで、笑うことも苦痛でした。しかし、今は違います。N先生の当たり前なことを当たり前にする御指導のお陰で、私の生き方が変わりました。自分に自信がもてるようになり、友だちとの学校生活が楽しくなりました。学校行事にも積極的に参加することができ、課題もしっかり提出しています。N先生からいただいた厳しい言葉、励ましの言葉、優しい言葉は数えきれません。これからも、指導してくださった事を常に心に刻み、残りの高校生活を楽しんでいきたいです。今の私の姿を中学生の頃の自分に見せたいです。

市原 康成

(高校生)

## 心に残っている先生

私が5年生の時の先生のお話です。私は、体育がとても苦手なので、運動会の練習の時、ずっと立ちっぱなしで倒れてしまいました。急に気分が悪くなって、その場にしゃがみ込んでいた私を、その先生は優しく保健室まで連れて行ってくれました。私は、それまでちょっとその先生を怖がっていましたが、その時、先生は本当は優しいことが分かりました。私は、だれでも最初から性格を決めつけるのはよくないことだということを先生から気付かせてもらいました。

もう一つ、お話があります。これも5年生の時の先生のお話です。私は体育は苦手ですが、国語はとても得意です。しかし、実は国語は嫌いでした。ある日、先生が新聞の作文や俳句、短歌を載せるコーナーに作品を出そうと私たちに提案しました。私も含めて、クラスみんなは、最初しぶしぶ作文や俳句を書いていたのですが、その作品が次々と新聞に載りはじめ、みんな自分の作品が載るように一生懸命書くようになりました。ちなみに私の作品は10回以上も載り、クラスで一番たくさん載りました。この取組から、私はだんだん季節や気持ち、自然などについて、言葉で表現するということはとてもいいことだと思うようになりました。国語も大好きになりました。

このように、少しずつでも嫌いな教科が減っていくということは、とてもすばらしいことだと思います。私を国語が好きにしてくれた先生に感謝したいです。

井上 実咲

(小学生)

## 先生に出会えて良かった

「学校って楽しい場所なんだ。」と私に教えてくれたのは、5・6年生の時の担任の先生だ。勉強があまり好きではなかった私。特に、理科は大の苦手で、テストで50点も取れなかったことを覚えている。そんな私を見捨てることなく、先生は丁寧に、根気強く教えてくださり、できたことをうんと褒めてくださった。その先生の思いにもこたえたくて、必死に勉強したことを思い出す。諦めずに努力すると結果が必ず出ること、頑張ることの楽しさに気付かせてもらった。

私の母校「都井小学校」は、大自然の中にある、かなり田舎の学校だ。先生の授業は、教室の中だけではなかった。都井の奥地の小さな川に行って、川エビを捕まえたり、むかごをとるために道具を作り、みんなで煎って食べたりと…。自分が生まれ育った都井の魅力を教えてもらった。そして、今では、いちばんパワーをもらえる場所になっている。

同級生の良さを教えてくれたのも先生だ。私の同級生は24名。1クラスしかなく、幼い頃からずっと同じだ。それなりに仲は良かったと思うが、幼い頃からの人間関係や上下関係で、言いたいことが言えず遠慮したり、冗談をされても何も言えなかったり…。というような空気があったように思う。そんな空気に気が付き、メスを入れてくださった。私たちの中にあるそれぞれの不満を、何時間もかけて同級生同士でぶつけ合った。それぞれが抱えていた悩みや不満をどんどん声に出してぶつけた。確かに傷つくこともあったが、みんなも同じ悩みや不満をもっていること、遠慮せずに自分の気持ちをぶつけて、知ってもらうことの大切さを教えてもらった。この時間のおかげで、自分や友だちの悪さや良さ、弱さや強さを知ることができた。そして、自然にお互いを思いやることができるようになっていった。それは、今でも変わることはない。先生のお陰で、私たちは最高で最強の同級生となっている。

岩切 奈緒  
(一般)

## 恩師を越える！

今の私を支えてくださり、今の自分があるのは、紛れもなく出会ってきた先生方のお陰です。小・中・高の学校生活の中で、何十人、何百人の先生方と出会い、同じ時間を共有してきました。その出会うことができた恩師の中で、私には特別な存在の先生が二名います。それは、中学校、高校で所属していた野球部の顧問の先生です。お二人の世代は違いますが、共通しているものがありました。それは、教員であり、監督という存在であったということです。時には、先生として接して頂き、その一方では勝負事の楽しさや厳しさを教えて頂き、そしてなんと言っても私に野球というスポーツを大好きにさせてくださり、野球を生涯スポーツとさせてくださったことです。私は本当に感謝しています。自分に夢を与えてくれたから…。もちろんお二人とは今でも関係は続いています。人生の岐路に立った時には、今でも助けてくださり、声をかけてくださいます。これからも、一生涯、私が死ぬまで先生方は恩師であり続けます。

話は変わりますが、先日このような場面がありました。高校時代のその恩師は、現在退職され、某社会人チームの指導をされています。私が現役時代、いつも背中を見ながらノックを受けていたあの監督がノッカーではなく、なんとノッカーにボール渡しをされているのです。私は、ハッとさせられました。この姿勢だな、この生き方だなと。今、その恩師が辿ってきた道に私は挑もうとしています。こんなことを言うと、叱られるのが目に浮かびます。ですが、言わせてください。いつか先生を超えたい。

江谷 星哉

(一般)

## 先生のようにになりたい

夢が決まらずに悩んでいた私に教師への道を示してくれたのは、私が小学校1年生の時の担任の先生でした。

私の出身小学校は大堂津にある小学校で、当時1年生だった私の担任は『スーパーティーチャー』と呼ばれる方でした。スーパーティーチャーがどんなものなのかを知ったのは小学校の高学年になる時で、それまでは、『なんだか凄い人』と、ぼんやりとした認識でした。その先生を私が凄いと感じたのは、道徳の時間です。道徳の副読本を進めていくだけでなく、その都度関係のあるようなお話を私たちに分かるように説明してくれ、なおかつ、それが眠くならないのです。

いじめがどんなもので、どんなに卑怯で悲しい行為なのかをしっかりと私たち生徒に教えてくれたのも先生でした。私たちのクラスにいじめがなかったのも、おそらくはそれが理由なのではと思うほどした。授業での教え方、字の綺麗さ、人への接し方、先生はどれも完璧で、成長した今、改めてそれが深く理解できます。

高校3年の冬、センター試験が間近に迫っていたにも関わらず、私にははっきりとした夢が決まっていませんでした。公務員を目指すか、教師としての道を歩むか、そんな悩みを抱えていた私は、近所のスーパーで先生と再会したのです。「夢が決まらないんです。」とそれとなく言葉をこぼした私に、先生は、「やってみたい、と少しでも思えることをしなさい。夢というのは、あなたがひとりで描くものじゃありません。家族や友人とだれかとあなたが揃ってはじめて夢の一步を踏み出せるんですよ。」と私に言って、温かいココアを買ってくれました。家に帰って、私はその言葉の意味をずっと考えて、教師になろうと決めました。どんなに困難でも、私には家族や友人がいて、いつでも私を助けてくれました。私は教職に就いて、たくさん子どもたちに、いろいろなことを教えていきたいと思いました。何より、先生のようにになりたいという気持ちも芽生えていました。私に教職に就きたいと思わせてくれた先生のように、子どもたちが先生になりたいと思うような、そんな人に私もなりたと思いました。

今、私は大学で教師になるための勉強をしています。先生方の講義を受け、自らの知識にし、少しずつ教職に向けて努力をしています。大学を卒業し、小学校が私の職場となるよう、頑張っていこうと思っています。

蛸原 花音  
(大学生)

## あの時から

私がその先生を初めて見たのは、小学3年生の時でした。その先生は中学校の先生で、隣のコートでバドミントンの指導を中学生にしていました。私はバレーを習い始めたばかりで、中学生が隣でやっていることさえも慣れていなかったあの時、その先生は生徒を厳しく指導していました。その姿がとても怖かったのを今でも覚えています。

中学生になった私は、部活動を決める際、その先生にだけは部顧問になって欲しくないと願っていましたが、それから3年間お世話になることになりました。ある日の部活動で、私たちの練習態度が悪い時がありました。いつもなら怒鳴られるところですが、その日は先生から集合がかかり、部訓についての話がありました。私の部活の部訓は、「克己復礼」でした。先生がその部訓の意味を部員のひとりに尋ねると、その部員は「分からない。」と答えました。私を含む全員が部訓の意味を完全に理解しておらず、改めて先生から教えていただきました。先生がおっしゃっていたのが「自分に打ち勝ち、礼儀正しく生きること。また、自分が他の人より優れていたとしても謙虚に生きることが大切だ。」でした。この言葉を聞いた時から、私の考え方が変化した気がします。

中学生の頃の私は、自分にできないことはやらず、自分より力が劣っている人と比べてしまう傾向が強く、また、目上の人への礼儀が正しくできなかったと反省することばかりです。そんな私が変わることができたのも、その先生からの指導があったからだと思っています。中学時代、お世話になりっぱなしだったあの先生は、知人の話によると教育委員会にお勤めになっているということでした。また会うことができるなら、感謝の気持ちをお伝えしたいです。

太田 早紀  
(大学生)

## 私を変えた先生との出会い

「岡上君は、先生に向いてるね。いつか同じ教壇に立てるといいね。」

この言葉は、私が中学3年生の時に担任の先生からいただいた言葉です。その先生は、私にとって恩師と呼べる先生で、私の人生に大きなきっかけを与えてくださいました。

その先生は、生徒一人一人としっかり会話し、人情味があり、とてもユーモアのある先生でした。そして何より、生徒の可能性を最大限に引き出してくださる先生でした。

当時の私は、恥ずかしがり屋で、人前に立つのが苦手な性格でした。そんなある日、私は恩師の先生に職員室に来るように言われました。「体育大会の団長をやってくれないか。」先生からの突然の話で、とても動揺したことを今でも鮮明に覚えています。ましてや、私のいた学校は、県内でも大規模校と言われるほどの生徒数を誇り、人前に立つことが苦手な私には、大人数の団員をまとめることなど到底務まらないと思っていました。先生は私の何を見て、そのようなことを言われたのかは今でも分かりません。しかし、先生の説得も受け、私は団長をやることになりました。実際にやってみると大変なこともありました。しかし、その反面、それまで感じたことのない達成感や充実感を味わうことができました。そして、なにより「自分にもできるんだ。」と思えたことが、当時の私にとって大きな自信となりました。

それ以来、私に体育大会の団長を薦めてくださった恩師の先生に感謝すると同時に、「自分もこんな先生になりたい。」と思う気持ちが強くなりました。“生徒の可能性を最大限に引き出してあげられるような先生”これが恩師の先生の教師像でもあり、私の理想とする教師像になりました。

その後、運命的にも恩師の先生と同じ大学に進学し、この春、教員になることができました。今となっては、本当に恩師の先生の一言があったからこそ、今、こうして教員としてスタートラインに立つことができたと感じています。

これからは、恩師の先生のような教師になることを目標に、ひたすら全力で走り続けていきます。そして、いつか先生と同じ教壇に立てることを願っています。

岡上 桂  
(一般)



## 応援される人間になりなさい

私は、4歳の時に剣道を始め、兄や道場の先生の影響で剣道の伝統校である高千穂高校に入学しました。日本一を目指し、高千穂で剣道をするのは憧れでした。そんな高千穂高校に入学してから、学生日本一という実績をもつN監督に指導をしていただきました。監督は剣道が強いだけでなく、特に私生活はだれが見ても完璧と思うほどしっかりしていて、休む暇がないくらい私たちに指導をしてくださいました。

私がいちばん印象に残っているN先生の言葉は、「応援される人間になりなさい。」です。その言葉を聞くまでは、剣道だけすればよいという考えでした。しかし、感謝の気持ちをもったり、私生活を意識したりして、それまでの自分と比べて、当たり前のことに対する考え方が変わりました。私は、「応援される人間になる」という言葉を意識した生活をし、最後のインターハイでは、多くの方々に応援をしていただき、大会を迎えることができました。

インターハイでは、私は途中で選手交代になりました。情けなさと、とても悔しい気持ちでいた私に、N監督は「お前には、まだやれることがある。」と教えてくださいました。その言葉がなければ、私は気持ちを切り替えることができなかったと思います。そして、多くの人の支えにより、26年ぶりの全国優勝を果たすことができました。N監督の指導は、毎日厳しいものでしたが、今では本当に高千穂高校に来てよかったと思っています。

これからは、大学進学、就職と歩んでいきます。高校で学んだことを忘れずに、剣道だけでなく、自分自身を成長させて、多くの人に応援されるような人間になっていきたいと思っています。

甲斐 慈玄  
(高校生)

## 私も同じ景色を見たい

小学3年生の時に会った先生がきっかけで学校の先生に憧れを抱くようになり、教員という職業に就きたいと思うようになりました。しかし、中学時代にたくさんの職業があることを知り、私はどんな仕事をしたいのか考え、悩み始めました。高校3年生の進路決定の時期になっても迷っていました。その当時の学級担任であったK先生に心境を話すと、なぜ先生が教員をしているのか教えてくださいました。「教員という仕事は本当に大変な仕事です。学級のこと、授業の準備、部活動の指導、この他にも仕事があります。特に3年生の学級担任になると、これらのことに加えて進路指導があります。時には、遅くまで、休みの日までしないと終わらないし、自分の好きなこともできません。それでも続けているのは、立派に成長して巣立っていく姿を見られるからです。卒業式のあの感動が忘れられない。もう一度という思いになるからです。」と話してくださいました。先生のこの言葉を聞いて、「どんな景色なのだろうか。」「私も同じ景色を見たい。」という気持ちが強まりました。そして、私は小学3年生で会った先生のようになりたいと思っていた時期があったこと、仕事は大変だけど、その先には素晴らしいものがあることを教えてくださいました先生がいたから、小学校の教員を志すようになりました。自分の教えた子どもが卒業する時は、どのような気持ちなのだろうか。私も味わいたい。卒業式の時期になると、この出来事を思い出します。K先生に出会わなければ、他の進路を選択していたと思います。一人前になって先生に会った時には、感謝の気持ちを伝えたいです。

甲斐 千尋

(一般)

## 下駄先生ありがとう

私は気が弱く、人前で話しかけられてもモジモジして、はっきりと口に出して答えることができない内気な小学4年の女子でした。体が弱く、運動も苦手で、図書室で本を読み、いろいろ空想するのが楽しみでした。今から61年も前のことですから、皆貧しく、大人たちは朝から晩まで身を粉にして働き、物資も豊かではありませんでした。交通機関もリヤカーや自転車で、バスは贅沢だと減多に乗ることができませんでした。

そのため、近くの小学校での行事の運動会と学芸会は、大人も子ども也大いに楽しみにしていました。運動が不得手な私は、運動会の練習が始まると憂鬱で、はちまきを見るのも嫌でした。そんな私が、学芸会でイソップ物語の「金の斧と銀の斧」の人形劇をやることになり、私は正直な木こりの役に配役され、不安でいっぱいでしたが、小柄ながらも大きな声のT君とペアで懸命に練習に励みました。劇が終わると体育館いっぱいの見物客は、大きな拍手を送ってくれました。ぼう然としている私に担任のM先生（渥美清に似ている通称「下駄先生」）は、「やればできるだろ？」と言いたそうな顔で頭を撫でてくれました。人形は操っても、布の台に私の姿は隠れて、皆には見えなかったから恥ずかしがらずに頑張ることができ、T君の声も体育館によく通り大成功でした。

このことをきっかけに、「やればできる」と自信がつき、友人も増え、学校が楽しくなりました。劇の配役は、おそらく先生が決めてくれたのでしょう。

私は、今も先生に感謝して、元気に頑張っています。

甲斐 美穂子

（一般）

## これから大切にしたいこと

私は、中学校から4年間、書道部に在籍していて、筆を持ち始めて、今年で11年になります。私を変えてくれた先生は、そんな中学校の頃から4年間、書道部の顧問をしてくださった先生です。

私は小学校の頃から、何事も長続きしない性分で、すぐ放り出したり、飽きたり、面倒くさくなったりしていました。そんな中途半端な私が、中学1年生の時に選んだ部活が書道部でした。その時も、私は、「3年経ったら次の部活かな。」という軽い気持ちでの入部でした。そして、その部活で私は先生に出会いました。

私が変わったのに、その先生の具体的なエピソードはなく、先生と過ごした4年間の中に、私が今大切にしたいものがいくつも詰まっているのです。紙に自分の学んだことを表現する楽しさや、向き合うことの大切さ、多くのことをその4年間で学びました。何より、私がいつまでも大切にしたいと思えるものを与えてくれたことに感謝しています。先生を少し避けていた時もありました。けれど、先生はいつでも私たち生徒との対話を大切にしてくださいました。時間をかけて作品について批評をくださいました。そんなたくさんの小さなエピソードが、私に大切にしたいものをいくつも与えてくれ、今、そしてこれからの辛いことを乗り越えるための糧となると確信できます。

私を変えたのは、4年間部顧問であった、書道の先生です。

甲斐 友梨香  
(高校生)

## 見えない優しさ

小学校6年の時の私の先生は、とても厳しい先生でした。挨拶の声が小さくて、みんな  
で挨拶の練習を何度もしたり、放課後に漢字の特訓を受けたりしたことを覚えています。

私は、小学校卒業後、6年間一緒だった友だちとは別の中学校に行きました。中学2年  
生のある日、部活動顧問の先生から呼ばれ、小学校6年の時の担任の先生が亡くなったこ  
とを聞かされました。そして、私一人が入学するために、中学校に何度も通ってくれたこ  
とや入学説明会の時、自分の小学校名が無いと私が悲しむだろうから、私の小学校名も書  
いて欲しいと中学校にお願いされたことを聞きました。陰でしてもらっている優しさに気  
付くことができなかった自分、そして今までしてもらった全てのことが私のためだったと  
分かった時、とても情けない気持ちになりました。そして、この感謝の気持ちを先生に伝  
えることができない悲しい気持ちでいっぱいになりました。

この先生のお陰で、私は人の見えないところでも優しく、そして人を表面で決めつけな  
いような人になることができました。今、小学校6年生の時を思い返すと、学習面だけで  
なく、生活態度や積極性、好奇心など、いろいろな面を育ててもらうことができ、とても  
メリハリのある1年だったと思います。

私は、その先生をととても尊敬しています。

香川 百萌子

(高校生)

## あの時出会っていなければ

私は小学校から「草花」に興味があった。当時、私の出身中学校は荒れていた。そんな中、私は、「草花」を通して三人の先生方に出会った。理科の先生・司書教諭・現業職員である。

現業職員は、以前花屋を経営しており、その経験から土作り・播種・栽培方法を教わった。理科の先生は、学校にMy花壇を造る際に協力してくれ、その後の管理も手伝ってくれた。陰ながら私のことを応援してくださった先生だった。司書教諭は、私を応援してくれ、高校進学でどこに行こうかと迷っていたとき、即、「あなたは自分の趣味や知識を活かすため農業高校に行くべきよ。」と言ってくれた。その言葉や励ましもあり、私も決心がつき、両親も納得し、農業高校に進学できた。合格発表時の先生方の嬉しそうな顔は今でも覚えている。

高校でも「草花」を通して、二人の先生方に出会った。担任と教科担である。教科担の先生は、草花の知識・栽培技術が豊富で、私は学校で学んでは自宅に帰り実践していた。3年次専攻でもお世話になった。先生の口癖は「ぼちぼち頑張りなあ。」であった。今思うと、様々な意味で、私自身この言葉に救われていたのかもしれない。

3年次進路で悩んでいたとき、担任をしてくれた先生が、「君は四大に進学しないか。成績・人柄・知識、総合的に考えて大学に行った方がいいよ。」と言われ、両親も驚いたが私も驚いた。この言葉もあり、私は大学を受験することになった。大学にも合格し、そこで教員免許も取得できた。卒業後、担任に会うと必ず「教師生活の中で、君は農業高校から四大に進学させた私の初めての生徒だよ。今は同じ教職員として頑張っていることが嬉しいよ。」と言う。

今でも思う時がある。中学校・高校時代に、この先生方に出会っていなければ、私は今何をしているのだろうと。私は、5年間講師をした後、現在は農業高校に勤務している。私が出会った先生方のように、生徒を変えられるかどうかは分からないが、私の経験を活かし、微力ながら生徒に還元していきたいと思っている。

川田原 正樹

(一般)

## 悔しいって思うなら大丈夫

私を変えた先生との出会いは、私が中1の時です。中1の時、私はほとんど学校に行っていませんでした。行ったとしても、保健室、相談室などで過ごしていました。

私は、1年2組だったのですが、当時1年3組の担任をしていたK先生は、クラスが違っても関わらず、私を見かけるたびに「おはよう。」と話しかけてくれました。そして、K先生は相談室や保健室にも来てくれるようになりました。最初は、最近あった嬉しいこと、楽しかったこと、おもしろかったことなど、私のもとに笑顔を運んでくれました。そんな毎日が当たり前になってきた頃から、徐々に私の悩みを聞いてくれるようになりました。私も心を開き、たくさんの悩みを打ち明けました。そんな時、K先生が私に言った言葉があります。「嫌なことがいっぱいあったね。その嫌なことを悲しいと思う？悔しいと思う？悔しいと思うなら大丈夫。その気持ちがあれば、また上を向けるから。」私は、この言葉にとっても支えられました。今でもずっと支えられています。

私が中2になった時、久しぶりに教室に足を踏み入れたら、担任として目の前に立っていたのはK先生でした。K先生とは今でもたまに会います。K先生は私を変えてくれた素敵な先生です。

木村 輝夢

（高校生）

## 私を変えた先生

私を変えた先生はK先生です。私が小学4年生の時の担任の先生でした。先生はよく道德の時間に「人間って何だろう？」と私たちに問いかけてきました。私たちは考えて意見を発表しました。でも、その答えは決まっていなかったと思います。先生は辞書で調べても出てこないと言っていました。確かに道德での答えは一つじゃないし、決まっていなかったと思います。

先生は体育の時間、縄跳びを2分間で100回跳ぶという目標を立て、私たちは大縄を始めました。私は心の中で、絶対にできるわけないと思っていました。でも、練習を重ねていく度に跳んだ回数は増えていき、私はいけるかもしれないと思い始めました。そして、ある日の体育の時間に、目標の100回を跳ぶことができました。その時、私たちは声を上げて喜びました。私たちは、体育の時間以外にも、昼休みにも練習していました。諦めずにみんなで協力して頑張れば、努力は必ず報われることに私は気付かされました。

3学期も終わりに近づく頃、クラスの文集を作りました。その時、先生が書いたメッセージにはこう書いてありました。

『「人間」とは、人と人の間を大切にする生き物であり、ひとりでは絶対に生きていきません。たくさんの人と協力して生きていく生き物だと先生は思います。』

私は、道德の時間のこと、クラスみんなでチャレンジした大縄跳びのことを思い出しました。4年生のとき、このことを教えてくれた先生に感謝したいです。その先生は私だけでなく、クラスのみんなを変えた尊敬する先生です。

黒田 ひかる

(中学生)



## 挑戦する心

私は小学4年生まで、人前に立つのがすごく苦手でした。保育園の時から仲のよい子の後ろをくっついてばかり。何をする時も一緒に、その子がいないと私は何もできませんでした。習い事も、その子がやっているからといって始めたものばかりでした。

そんな私が3年生の時、H先生という音楽の先生がやってきました。人前に出るのが苦手な私は、音楽の授業が苦手でした。そんな私に、H先生は「きれいな声をしているね。合唱部に入らない？」と誘ってくれました。私は、その時はじめて、自分からやりたいと思うものに出会いました。はじめは恥ずかしがっていた私でしたが、H先生の指導のおかげで、今では人前で歌うのが大好きです。

H先生が私に教えてくださったのは、挑戦する心です。学校での音楽コンクールの時、数人がソロで歌うところがあり、私は是非歌いたいとオーディションを受けました。結果は合格。ソロで歌えることになったのです。

しかし、本番で、私はあまりの緊張に声が裏返ってしまいました。途中で切り替えることはできましたが、私はショックでした。それからまた、私は人前に出ることに不安を感じるようになりました。そんなとき、H先生は私を呼んで、「だれだって失敗することはある。失敗することは怖い。先生も怖い。でも菜桜さんは自分からソロをやりたいと言って挑戦した。その気持ちが大切なんだよ。」そう言ってくれました。この言葉を忘れず、今でも私は挑戦しています。

児玉 菜桜

(高校生)

## いいものもってる！

「いいものもってる。」たったこの一言で私にやる気を起こしてくれた。

私は理系なのに数学が大の苦手。どんなに勉強してもつまずき、答えを導き出せずにイライラ。塾に行きたいと悩んでいる時、兄から、学校の先生になぜ聞かないのかとポツリと言われた。「行きにくい。」「聞いて分からなかったら恥ずかしい。」という気持ちがあった、私は行くことすら考えなかった。「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の悔い」と思い、友だちと先生のもとを訪ねた。

先生は、どんなに忙しくても手を止めて問題に挑み、私に分かるように教えてくれる。そう、どんなに重要な仕事があっても、「放課後來なさい。」「昼休みにおいで。」と、決して私を面倒くさがない。先生のもとに行き、数学を解くことが楽しくてしょうがない。でも、つまずきばかりで先生のところへ行くことも申し訳なく悩んでいる時、「いいものもってる！」と言われた。先生は、どんな気持ちで言ってくれたのだろうか。私には最高の言葉だった。明るい未来が見えた言葉だった。「よし！自分のためにも、先生のためにも、絶対に志望大学に合格したい。」そう思わせてくれた一言だった。

いつか私も先生のように、どんな生徒に対しても向き合うことができる教師になり、先生と一緒に仕事がしたいと思う。さあ、今から私の夢のスタートだ。先生ありがとう。そして、よろしくお願いします。

玉井 菜七子  
(高校生)

## 私を変えた先生との出会い

私が影響を受けた先生は、中学時代の音楽の先生です。私たちは入学した時から「がんばれ学級」と言われてきました。先生の話をしっかり聞かない。言われたことを真面目にしないなど、当たり前のことできていませんでした。毎日毎日叱られ、呆れられることもありました。

私たちはF中最後の卒業生と言われてきました。1年生の時に聞いた3年生の先輩方の歌に惚れて、私たちも先輩のようになりたいと憧れていました。先生は、「歌詞一つ一つの意味まで考えなさい。」と言われました。歌練では、リーダーを決めて、そのリーダーを中心にやっていきました。合唱は全員で息を合わせないと感動しません。一人一人が人任せにせず、全力でやりきることが大切なんだと感じました。

その先生は、私たちに歌を通じて学ばせてくださいました。学年が上がる毎に、少しずつ成長し、いつの間にか叱られることもなくなりました。その先生は、歌で人任せにしないこと、だれかがリーダーになってまとめることなど、たくさんのことを学ばせてくれました。そのお陰で、私は、人として成長することができました。

N先生から学んだことをこれからも忘れず胸に刻んでいきたいです。また、これまで学んだことをこれからの高校生活でも生かし、充実させていきたいです。

田中 美里

（高校生）

## 私を変えた先生との出会い

私は中学校1年生から2年生までの約二年間、学校に行くことができませんでした。朝、学校に行こうとすると、高熱や腹痛の体調不良が毎日続きました。何箇所もの病院に行ったり、検査をしたりしましたが、原因は分からないままでした。皆と一緒に普通の学校生活を送りたいと、そう思ってもなかなか体は気持ちに答えてくれませんでした。いっそのこと、環境を変えてみようと、転校の話も出ていた時です。「絶対、I中学校の皆と一緒に卒業させてあげたい。少し無理してみるのも大事だよ。」そう言葉をかけてくれたのは、私の2年生の時の担任の先生でした。

その先生は、中学校から私の家まで、朝早くから毎日歩いて私を迎えに来てくれました。また、夜も何度も家に来てくださり、どうしたら私が学校に行けるようになるか、一生懸命話し合ったり、時には涙を流して話をしたりすることもありました。先生のお陰で、2年生の後半から徐々に登校できるようになり、3年生になった時には、皆と同じように学校生活を送れるようになりました。

それからは、全校生徒をまとめる合唱リーダーに立候補し、県の合唱コンクールに出場したり、高校では生徒会長を務めたりと、いろいろなことに積極的に挑戦できるようになりました。今でも「あの頃の茉里奈からは想像できない。」と周りから言われるほど充実した日々を送っています。

あの時、先生と出会っていなかったら、こんな前向きな気持ちになれた私はきっといなかったと思います。先生との出会いを心から感謝しています。これからもこの御恩を忘れず、私も人のために一生懸命できることに取り組みたいです。

戸高 茉里奈  
(高校生)

## 「落ちこぼれ」がくれた私の夢

私が教員を目指すきっかけになったのは、高校生の時の部活の顧問の先生です。その先生はバスケットボールが専門でした。バレーボールのルールも、知識も何も知らない先生と、高校バレーのスタートでした。

私が2年生の時、バレーボール部主将として、仲間の気持ちを上手く汲み取れず、どんどん離れていく仲間を追いかけることも出来ず、ただ立ち止まって泣いていた私に、ある詩をくださいました。

茨木のり子さんの「落ちこぼれ」。「立ち止まっている優に詩を渡そう。でも、タイトルに傷つかないで欲しい。タイミングが悪いけど、今の優にぴったりだよ。」と、苦笑いしながら渡されて、更に泣いたのを覚えています。当時は、心がいっぱいになっていたこともあり、その後、先生が何と言ったのか、はっきりと覚えていません。

しかし、その詩をもらってからは、これまで以上にだれよりも努力して、最後の総体を迎えました。「勝ち残りしたい!」「せめてもの恩返しだ!」と全員でボールを繋げて、一点を追いました。結果はベスト16を懸けた試合で負けてしまい、勝ち上がることが出来ませんでした。悔しい結果でしたが、一点を取る度に、先生と喜び合ったのを今でも覚えています。その時から、私の夢は「先生と同じ道を歩みたい。」という目標になっていました。

私が卒業のときに「勝たせることが出来なくてごめん。先生になって会おうな。」という言葉が印象的でした。先生の努力も私の努力も、卒業式の日に分かち合えた瞬間だったと思います。

「小学校の先生になって、また先生に会いに行きます。それまで待っていてください。」と約束してから先生には連絡をとっていません。教員採用試験を受ける今年、あと少しで夢が叶うと思うと、楽しみでしかたがありません。次は、私が先生のように、子どもたちのために何かを伝えられるような先生になれるように努力したいです。

中別府 優  
(大学生)

## 命の大切さ、生きることの素晴らしさ

私にとって命の恩人と言っても過言ではない先生との出会いがありました。

今から9年前になります。その先生は、今でも現役の大ベテランの先生で、特別支援学級の担任をされています。最初の出会いは、私の長女が入学した学校にいらっしゃった時のことです。長女がその先生から授業を受ける機会もなくスタートしたのですが、PTAの懇親会で偶然、隣の席に座ることになり話をしたことがきっかけでした。お酒を飲む席だったこともあり、大きな声で、よく笑うというのが最初の先生の印象でした。でも、その後、学校での交流もあり、その先生への印象が大きく変わることになりました。長女のことでも担任ではないにも関わらず、本当に親身になって相談を聞いてくださり、何度も助けられました。そんな中、私自身も体調を崩し倒れたことがあり、その先生が、今でも通っているかかりつけの病院を紹介してくださって、倒れたときも病院まで飛んで来てくださったのです。それからずっと付き合いがあり、別の学校に行かれても、何かあれば相談にも乗っていただいて、我が家まで来てくださることもたくさんあります。

あの時、先生がいらっしゃらなかったら、きっと今の私はありません。命の恩人であり、心の支えである大きな大きな存在です。何かあれば関わりたくないと思うのが、人間の心理で、本音だと思います。それでも、その先生は上辺だけではなく、本気でぶつかって、本気で応えてくださる素晴らしい先生です。そんな先生が一人でも多く、私や子どもたちを救ってくださったように、活躍できる学校が増えて欲しいと心から願うばかりです。

根木 智子

(一般)

## この言葉を胸に

私は小学生の頃、とても元気な子だった。良いことも悪いこともたくさんしてきた。そんな時に、優しく厳しく見守ってくれたのが小学校2年生のときの担任のU先生だった。特に、私自身を支えてくれたのが小学校2年生の頃だった。私は元気があるが故、全体を仕切り、まとめるのが好きな子であった。そんな性格は、良くもあれば悪くもあるということだった。その性格が悪い方に生かされてしまい、私は友だちとトラブルを起こした。自分は遊び半分でやっていた行動が、相手を大いに傷つけていたのだ。それを指導してくれたのがU先生だった。

先生は私に聞いた。「〇〇ちゃんについて、何か心当たることはない？」と。今思うと、悪気があってしたのか、分からずにしてしまったのかを確かめなかったのだろう。そして先生は、怒鳴るのではなく、私を諭すように、しっかりとゆっくりと教えてくれた。その時言ってくれた言葉を私は今も忘れずに実行している。それは、「自分がされたら嫌でしょ。」という言葉だ。幼稚な言葉に思うかもしれないが、当時の私の心には、すんなりと赤子を抱く母親の子守歌のように入ってきた。この言葉は、大人になって社会に出て、上の立場になった時などにも大切になってくると思う。

現在、私はクラスの書記をしている。学級委員長、副委員長と共にクラスに指示を出す時、私はどのようにすればクラスがまとまるかを常に考え、言葉を選んで指示している。あの時の、ただ仕切りたいという私から、目的をもってまとめようと思い始めたのは「自分がされたら嫌でしょ。」という言葉があるからだ。

U先生には、私の性格を良い方に伸ばしてもらい、本当に感謝している。これからも、第一に人の気持ちを考えられる人でいられるよう、この言葉を胸に頑張っていきたい。

三樹 茉凜  
(中学生)

## 私の原点

私を変えた先生との出会いは、小学6年の時です。それまでは平凡で、ありふれた学校生活を送っていましたが、その先生と過ごした一年は一生忘れることはありません。

クラスの担任になったその先生のモットーは「泥をかぶれ」というものでした。これは、「たとえ嫌なことでも、人のため自分のために率先してやりなさい。」という意味で、この言葉をクラスで掲げ、一年を過ごしました。

はじめは、自分を含め、なかなか行動に移すことの出来ない人が多くいましたが、気がつけば、だれ一人として消極的な者はおらず、発表やボランティアなどを進んで行っていました。朝、登校すれば、花壇の草取りをしたり、正門を掃いたり、何かすることはないか探していました。そのため、朝の教室にはだれもいないというのが当たり前でした。

また、授業では私語や居眠りは一切なく、全員が集中して取り組み、発表に関しては全員が手を挙げるため、我先にと挙手のスピードを競うほどでした。あの時の私は希望に満ちあふれ、その目は常に輝いていました。

クラスでも自然と『積極的』『視野を広く』『有言実行』といった声が飛び交うようになり、今思えば、こんなにも毎日が楽しく、積極的に行動できていたんだと、過去の自分を羨ましく思います。そして何より、ここまでクラスが変わったのは、先生の心からの熱い気持ちが、言葉一つ一つに表れていたため、それに応えようと一生懸命になれたからです。

その先生とは、クラス全員が絶対的な信頼関係にありました。勉学の面はもとより、人間として大きく育ててもらいました。今の私の原点はここにあります。先生は一人一人と向き合い、人として立派な大人になるレールを敷いてくださっただけでなく、人間の本質そのものを教えてくださいました。私は今、その道を真っ直ぐに進んでいます。

吉村 光正  
(高校生)